

みゆきの里通信

特集 | 緩和ケア病棟の取り組み

2018 AUTUMN

vol.37

穏やかで安定した日々を、
専任医師とスタッフがサポート



人が人をおもう。
人が人をつつむ。



みゆきの里



みゆきの里 会長
医療法人博光会 理事長

富島 三貴

「全人的な健康づくり」を目指して

猛暑の夏も過ぎ、ようやくしのぎやすい季節になりました。

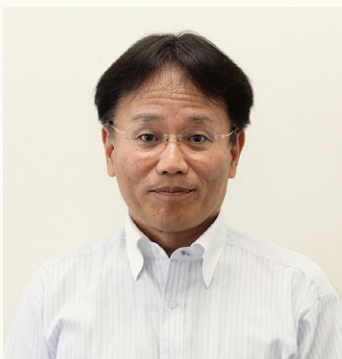
今夏は、西日本豪雨被害、度重なる台風、災害とまでいわれた猛暑、そして北海道では震度7クラスの地震が発生しました。被災された地域へ心よりお見舞いを申し上げます。熊本地震という体験をした私たちは改めて、これらの脅威を乗り越え、複雑さを増す社会の中で健康な人生を送っていくためには、身体はもちろん、マインド、スピリットの三位一体となった健康づくりが大切であることを痛感、私たちが取り組んでいる「みゆきホリスティックライフプロモーション事業(略してMHL P)」推進の重要性を再認識したところです。

この事業は、地域の方々の健康寿命を延ばし、自助力を高め、互助の精神を滋養し、さらには地域の健康づくり力を育むもので、健康を、身体的な面だけでなく精神的、社会的、さらにスピリチュアルな観点から捉え、「全人的」な健康を目指すものです。2年前からは健康寿命の延伸と地域の健康づくりのリーダー育成を目指す「みゆきHolistic Life プロモーション(MHLP)講座」をおこなっており、この8月には第5期の講座が開講、26名の受講者を迎えることができました。講座を通じて、ご自身の健康状態を見つめ、改善していただくサポートに取り組んでおります。

まずはご自分の健康を維持するセルフケア、そしてお互いに支え合う互助へと高め、そして、その力を地域全体に広げ「健康で長生き出来るまち」を実現させるという大きな目標を掲げています。高齢化に伴う医療や介護が国家的な問題になっている現在、私たちは、保健・医療・福祉の有機的な連携や、全人的な健康づくりを通じて、国や自治体とご一緒に健康で長生きできるまちづくりを、引き続き目指して参ります。

みゆきの里通信 vol.37

- おかげ様でみゆき園は30周年
- 緩和ケア病棟の取り組み
- 御幸病院 地域医療連携センター
- みゆきびと



新事務局長
上田 信之

平成30年7月1日より事務局長に就任しました上田信之と申します。

御幸病院は、建設後36年を経過しておりますので、患者様により快適に過ごしていただくべく、4年後に建て替えを計画しております。新病院建設に向け、医療の質とサービスの一層の向上や病院運営の効率化に取り組み、地域から愛され信頼され、職員が誇りと喜びをもって働ける病院を目指してまいります。

就任にあたり職員には、「自分に今、何が求められているかを常に考えて行動し、思考と行動の往復運動を高速に回してほしい」旨、訓示しました。マクロを捉える「鳥の目」、ミクロで考える「虫の目」、潮目を読む「魚の目」の3つの視点から、世の中の動きや行政・経済動向を捉え、経営感覚を磨きながらも、大切なものを見極めて、多職種で一体感のあるコミュニケーションをもって支え合い、里全体として成長し続けて、「熊本市南区にみゆきの里があって良かったね」と感謝される存在になりたいと想っています。



おかげ様で、
みゆき園は
30周年！

課題で、職場環境の改善には、今まで以上に力を入れて取り組んでいきたいと思っています。

みゆき園はこれまで、入所者個人の尊厳を大切にするユマニチュード※の考えを軸に、地域の医療拠点となる御幸病院や在宅復帰強化型のぼたん園とつながることにより、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体となった高齢者支援の実現を目指してきました。今後も、医療・介護連携の強みを生かし、高齢者が、住み慣れた地域で安心して生活できる地域包括ケアシステムの構築に向けて、さまざまなニーズに対応できるよう、さらにケアの質を高めていきたいと思っています。



みゆき園施設長 中村 阿紀子

地域共生社会の実現を目指して

入所50床・ショートステイ5床にデイサービスセンターを備えた特別養護老人ホームとして、昭和63年に開設されたみゆき園。平成4年に20床の増床を経て、今年で30周年を迎えました。

私がいみゆき園に就任した5年前既に、入所者のほとんどが要介護3以上でした。重度化した入所者にどう応えるべきかを考えると自分には荷が重く腰が引けましたが、意思を伝えられない相手にもニコニコと笑顔で接する介護員たちの姿に心を打たれました。まず、150数名の職員全員と面接して一人ひとりの顔と名前を覚え、コミュニケーションをとりました。それから、申し送りの廃止や記録方法の見直しなど、業

務の効率化に着手。同時に“科学的介護”を標榜し、入所者個々の生活分析によって、それぞれのニーズに沿ったケアを心がけました。ミーティングや研修の強化はもちろん、家族会や防災チームの開設また御幸病院・ぼたん園との連携によるみゆきの里としてのキャリアラダーの導入を推進、内部基準を設けることで、年齢やスキル、キャリアや目標もさまざまな職員たちが、それぞれに専門家としての自覚ややりがいを感じ、成長していけるようサポートしてきました。介護人材の確保が難しくなる昨今では、海外からの就労者受け入れや、ワークライフバランスを重視した働きやすい職場づくりも

※ユマニチュード(Humanitude)とは、フランス語で「人間らしさ」の意味を持つ包括的ケアメソッドの一つで、特に高齢者と認知症患者において有用性が認められている。



穏やかで自分らしい最期の日々を 過ごしていただくために

できるだけ 普段と変わらない 心安らかな日常を

緩和ケア病棟には、ガンの終末期患者を中心に、全20床のうち、現在15名の方が入院されています。日々、病状が変化していく中、できるだけ今までと変わらない穏やかな生活を送っていただくため、専任医師とスタッフが一丸となってサポートしています。

末期ガンの症状を軽減して安定した心身の状態を維持する診療行為はもとより、衣食住をはじめとした生活動作の介助、心身を安楽に衛生的に保つた

めのケア、身体機能を生かし維持するためのリハビリなど、緩和ケア病棟でのサポートは多岐にわたるため、スタッフは、看護師約15名、リハビリを行うセラピスト3、4名、薬剤師1名、管理栄養士1名、ソーシャルワーカー1名と手厚い体制をとっています。

中でも、患者さんの心の糧となり、明日を生きる支えとなるのは食事です。ここでは、栄養士や料理長との連携のもと、生命を維持するという栄養面の配慮にとどまらず、患者さん個々にとって食べる喜び、生きる希望につながる食のあり方を追求しています。「いのちのスープ」※の提供もその一つで、手間と時間

をかけてじっくり煮込んだスープには、大地の生命力と人の真心がこもり、心身の癒しにもつながります。

一人ひとりの希望に沿った ケアと支援のために

患者さんがここで過ごす期間は、3週間から6週間が一般的。後半になるにしたがって動けない時間が多くなるため、はじめの1週間がカギです。いかに患者さんの希望に沿う計画を組み立てられるか、その思いを汲み、スタッフ全員で共有するための同時多発的なコミュニケーションが重要になります。積極的に自己開示される方もあれば寡黙な方も



あり、昼間は自分のことを話したがいらない人が、夜勤の看護師には話すというケースもあります。また、一人ひとりの社会的背景や人間関係を考慮することも重要で、家族や友人など、患者さんを取りまく人々からの情報収集も欠かせません。さまざまな情報を照らし合わせ、それぞれの意見を調整しながら最善の道を探ることが求められます。さらに、院内での医療や看護、介護にとどまらず、外泊、在宅支援なども念頭に置きながら、ソーシャルワーカーを中心に、社会制度や他の施設など色々な社会資源も積極的に活用しています。

どうすることが その人にとって最良なのか？

ホスピスという特性上、医師として行えることには限りがありますが、患者さんがこれまで生きてこられた人生に敬意を払いながら、全人的に関わるといふ点では大きな意義を感じますし、その思いはスタッフ全員に共通のもので、痛みを和らげるための投薬一つとっても、その方の精神状態や置

かれた状況によって効果は大きく左右されるため、薬剤師と一緒に多面的に判断し、家族の協力も得ながら、スタッフみんなで向き合っています。医療優先ではなく、どうすることがその人にとって最良なのか、を常に問われる現場。例えば、自宅に帰った方が1週間後に亡くなったケースでは、「最後は家で…という本人の願いがかなえられた」とご家族に感謝され、医療者としての満足や客観的な評価よりも、患者さんの意思を尊重することの大切さを再確認させられました。

人生の最期に、少しでも多く「いい一日だった」と思える穏やかな日常を送っていただきたい。自分らしい時間を、できるだけ長く過ごしていただきたい。「あの時、ああしていれば…」という後悔が残らないよう、これからも、医師とスタッフ全員が心をつなげて、一人ひとりの最期に寄り添っていきたいと思います。

※いのちのスープは、料理家の辰巳芳子さんが病床のお父さんのために工夫を凝らして作り続けたスープが原点。人々を癒す「いのちのスープ」と呼ばれ、たくさんの人に感動を与えています。

【心不全患者の受け入れ強化】

御幸病院 院長 西上和宏



終末期心不全のニーズに応える

高齢者の20%から30%と、かなりの高確率で心不全を抱える患者が存在する現状を踏まえ、平成29年春、御幸病院にLTAC心不全センターが開設されました。今後は、緩和ケアの一つの柱として、終末期心不全の患者のニーズに応えることが、地域包括ケアシステムの中核を担うみゆきの里グループの使命であると考えています。5年後を見据えた新たな事業展望の中で、在宅診療の強化も含め、さまざまなステージの心不全患者に適切な医療とケアを提供できるよう、体制を整えてまいります。



緩和ケア病棟 医師 緒方賢一郎

平成21年4月 NTT西日本九州病院 肝臓消化器内科

平成22年4月 天草地域医療センター 消化器内科

平成24年4月 水俣市立総合医療センター消化器内科

よりよい在宅介護・看護を支えるための 「ご家族お助け入院」(レスパイト入院)をご存知ですか？

御幸病院 地域医療連携センター

御幸病院地域医療連携センターは、地域住民の皆様のかかりつけ医である開業医・クリニックの先生方と役割機能を分担して一人ひとりの患者様に対して継続した安全な治療を提供し、療養・リハビリに専念して頂くための窓口です。治療や療養の過程で生じる様々な問題について、医療ソーシャルワーカー(相談員)が患者様・ご家族様と一緒に解決方法を考え、安心して治療や療養に専念して頂けるようお手伝いをご提供しています。

地域医療連携センターでは、一般・緊急入院、ホスピス(緩和ケア)入院のほか、

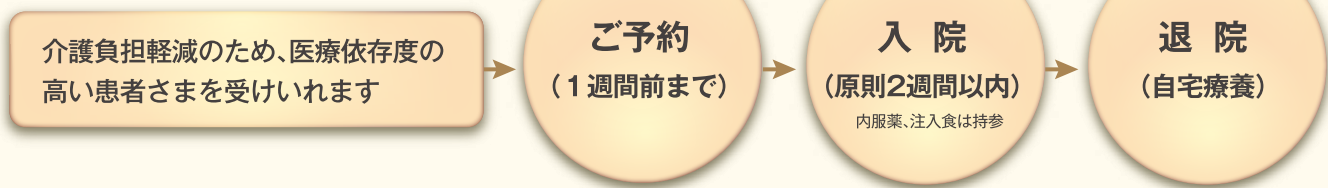
短期入院(検査・レスパイト)の受け入れのご相談、手続き行っており、なかでも注目を集めているのがレスパイト入院です。レスパイトとは「一時休止」「息抜き」という意味で「家族お助け入院」とも呼ばれています。在宅介護などで介護者が日々の介護に疲れを感じ、介護不能になることを予防する目的で短期間の入院を受け入れるものです。介護保険にも「ショートステイ」で一時的にお預かりする仕組みがありますが、レスパイト入院は、医療依存度の高い方を、例えば、近親者の冠婚葬祭、介護者の病気、出産、旅行などご家族のご事情で一

時的に介護や看護が困難になった場合に、一時的に医療保険適用で入院させることが可能です。

レスパイト入院の受け入れは、医療機関によって異なりますが、当院では、脳卒中の後遺症で日常生活動作レベルが低下して介護が大変になった方や神経難病の方、在宅酸素療養中の方、気管切開を受けられている方、胃ろう等の経管栄養中の方及び治療に関わる処置が必要な方などを対象としています。

レスパイト入院の一回の入院期間は、原則2週間以内です。詳しくは御幸病院地域医療連携センターで相談ください。

◎ レスパイト入院の流れ



●●●●●● 地域医療連携センターからのお知らせ ●●●●●●

こんな病状の患者様の入院もお引き受けしています

『脊椎圧迫骨折』『肺炎』『熱中症・脱水』『尿路感染症』などで、急性期病院に入院するほどの病状ではないが在宅療養が難しい患者様の入院治療・療養をお引き受けしています救急車での入院、転院のお迎えも行っています。

心電図の読影を開始しました

当院では、昨年設置したLTAC心不全センターで長期にわたり専門的な治療を要する心不全患者を多職種でケアしていく体制を整えています。近隣の医院・クリニックの先生方からのご相談があれば心電図の読影(意見交換)を実施しています。

みゆきびと

スタッフからのメッセージ



「御幸病院 回復期リハビリテーション病棟について」



回復期リハビリテーション病棟 科長 田中 誠

当院、回復期リハビリテーション病棟は、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、介護福祉士（看護補助者）、ソーシャルワーカーのリハビリテーションに関わる9つの専門職が、患者様とご家族様を中心とした1つのリハビリチームとなり、各専門職が協働して、集中的にリハビリテーションを提供する病棟です。疾患ごとの全身管理を行いながら365日リハビリが提供できる環境はもちろん、患者様がその人らしい生活の再建ができるよう、ニーズを第一に反映させたカンファレンス、個別性の高い日常生活動作訓練、食べるためのリハビリ、在宅生活を意識した家屋調査や退院前の訪問指導を積極的に実施しています。また、退院後も安心して生活できるようにお一人おひとりに応じた退院支援をしております。



「御幸病院 緩和ケア病棟について」



緩和ケア病棟 主任 秋吉 清子

病と闘ってこられた患者様・ご家族の辛さは計り知れないものだと思います。緩和ケア病棟では、患者様・ご家族のお体だけではなく心の辛さにも寄り添い苦痛を和らげるお手伝いを心がけています。お家にいるような安心できる環境を提供し、いつでも傍らで支える伴奏者のような存在でありたいという思いがあります。病棟で出会う方々は、すべてご縁です。ご縁を大切に、その方らしさを支えることは、私たちスタッフの楽しみでもあり学びでもあります。病が進む中でありながらも作品を作り病棟で個展を開催された方、お客様の結婚式に参列が難しい状態の患者様の為、ご家族と職員が病棟で小さな披露宴を行い、親子それぞれの想いが叶えられた方など、その方らしく”生きる”を支える場所だと思っています。患者様のご要望をしっかり把握し、一日一日を大切に穏やかに過ごせるようお手伝いをしています。



新任 整形外科医
井 賢治 医師（イ ケンジ）

【職歴】

平成5年 熊本大学医学部 麻酔科入局
平成6年 山鹿市立病院
平成11年 国立病院機構熊本医療センター 整形外科
平成24年 宇城総合病院 麻酔科部長就任
平成28年 宇城総合病院 リハビリテーション科部長就任

【専門医/認定医】

日本整形外科学会会員、西日本整形外科学会会員、
日本リハビリテーション医学会認定臨床医
日本麻酔科学会麻酔科認定医、麻酔科標榜医（厚生労働省認定）
身体障害者福祉法指定医（肢体）

新任 内科・腎臓内科医
細川 貴規 医師（ホソカワ タカノリ）

【職歴】

平成5年 野市中央病院 内科
平成6年 近森病院 内科・救命救急
平成7年 佐川町立高北国民健康保険病院 内科
平成10年 高知医科大学 内科
平成13年 高知県立安芸病院 内科
平成16年 土佐市立土佐市民病院 内科医長就任
平成26年 斜里町立国民健康保険病院 内科

【専門医/認定医】

内科認定医、腎臓内科専門医、日本医師会認定産業医、
ICD（感染症専門医）

みゆきの里ニュース

地域の皆さまと楽しく、にぎやかに みゆきの里夏祭り

地域の皆さまと一緒に夏の夜を満喫！恒例のみゆきの里夏まつりを8月2日に開催、近隣の方々をはじめ、たくさんの皆さまにご来場いただきました。まつりの舞台では、御幸保育園の和太鼓演奏、リズム幼稚園・こぼと保育園の皆さんはソーラン節を披露、元氣いっぱい可愛らしい演奏・踊りで、会場を湧かせてくれました。またピオニーガーデンでは、職員製作による可愛い流木人形たちが祭囃子を奏で、祭りを盛り上げました。



みゆき Holistic Life プロモーション 第5期講座が開講

健康を、身体的な面だけでなく精神的、社会的、さらにスピリチュアルな観点から捉える健康観を“全人的健康(ホリスティック)”といいます。みゆきの里では、この全人的健康の考え方を学ぶことを通じて、健康寿命の延伸と地域の健康づくりのリーダー育成を目指す『みゆき Holistic Life プロモーション (MHLP) 講座』を推進。平成28年2月に第1期講座をスタートし、これまでに多くの卒業生を輩出してきました。この度、第5期となるMHLP講座が8月29日(水)に開講。26名の受講生が開講式に臨みました。

MHLPの総合プロデューサーを務める吉田紀子医学博士は、「我が国は世界一の高齢先進国です。著しく高齢化が進む中で、日本はいかにして皆が元気で幸せに暮らせる日常、そして国を作っていくのか？と世界各国が注目しています。人生100年時代と言われますが、100年単位で元気で長生きするためにはこれまでの健康法では限界があります。皆さんには受講を通じて

健康で長生きできるような身体、心、命、社会的な側面の健康法を身につけ、周りにどんどん広げていただきたいのです。本講座では、アリゾナ大学のアンドルー・ワイル教授(アメリカの健康医学研究者。統合医療の提唱者として著名)などが使っておられる世界最先端のプログラムを日本人向けに改良し、医師や栄養士など多くのスタッフがタッグを組んでサポートします。皆様が『まるごと元気』を目指す4ヶ月間を心から応援し、しっかりと伴走させていただきます」と挨拶をされました。

その後、受講生一人ひとりの、お名前を読み上げながらご紹介。さらに、MHLPで講座を担当するみゆきの里スタッフ13名が挨拶を行い、開講式を終えました。閉式後は早速第1単元「講座概論・ビジョンメイキング」の授業を開催。受講者の皆さんは真剣な面持ちで講義に聞き入っていました。

これから4ヶ月間、みゆきの里は受講生の皆さんを全力でサポートさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。



A) MHLP事業統括責任者として「この講座では吉田先生の様々な講話と、私どものスタッフの体験講座をご用意しています。座学と体験を通して、ご自身の健康状態を見つめ、楽しみながら受講していただきたい」と挨拶するみゆきの里の富島三貴会長 / B) 総合プロデューサーの吉田紀子医学博士 / C) 受講生は、みゆきの里職員6名を含む地域住民の皆さん26名。4ヶ月間で14単元を学びます / D) 講座を担当するみゆきの里スタッフの面々



～医療の輪で、健康と命の尊厳を支えます～

医療法人博光会 御幸病院

- 【診療科目】 内科・循環器内科・消化器内科・呼吸器内科・漢方内科・リハビリテーション科・心療内科・アレルギー疾患内科・腎臓内科・整形リハビリテーション科・麻酔科 [医師：岡崎正雄]
- 【診療受付時間】 平日 午前8時30分～午後5時 ※ 但し急患は何時でも受け付けます。
- 【施設概要】 ●一般病棟 30床 (LTAC4床、地域包括ケア病棟10床含む) ●回復期リハビリテーション病棟 60床 ●医療療養病棟 47床 ●地域包括ケア病棟 29床 ●緩和ケア病棟 20床 計186床 ●訪問看護ステーション「みゆきの里」御幸病院訪問介護事業所



<http://miyukinosato.or.jp>

みゆきの里グループ

みゆきの里 総合相談支援センター
みゆきの里 在宅総合支援センター

医療法人 博光会

医療法人 博光会 御幸病院
介護老人保健施設 ぼたん園
サービス付高齢者向け住宅 サンシティハウス
医療法人 博光会 みゆき天明クリニック

社会福祉法人 健成会

軽費老人ホーム 富貴苑
ケアハウス ピオニーガーデン
ウェルネススクエア 和楽
特別養護老人ホーム みゆき園
地域密着型小規模
特別養護老人ホーム みゆき東館
小規模多機能ハウス ほがらか
グループホーム ほがらか

関連法人

株式会社 みゆきの里 健康ファーム
株式会社 笑健